

03 令和4年度 学校評価(教職員)

評価項目	担当	具体的項目	目標	具体的方策	評価基準	前期	年間	総合	年間の成果と課題
① 学校の組織的経営力の充実と向上	教務部	学校運営の円滑化	各分掌や学年と連携し、各種行事や業務等における要項の早期提示を行うことで、学校運営の円滑化を図る。	教職員の仕事が円滑に進むよう教務の計画を事前に示す。 備品・消耗品・周辺機器の整備をする。	教務の計画を事前に示し、役割が明確に伝わる要項が提示できれば「3」 1ヶ月前に提示できれば「4」 必要なもの・システムが整備され、日々の仕事に支障を来さなければ「3」 毎週の確認ができれば「4」	3	3	B	①要項については、分掌会での情報共有を行うことができた。内容についても、昨年度の反省を踏まえて改善することができているので、今後も継続していく。 ②備品・消耗品の管理も滞りなく行うことができ、年度末に向けた消耗品の確認も行うことができた。今後も継続していく。
	進路指導部	総合的な探究の時間の充実	キャリア教育を柱とし、3カ年を見通した総合的な探究の時間の運営と内容の研究。	キャリア教育を柱とした総合的な探究の時間の年間計画を立て、実施する。 今年度の反省をし、次年度の計画を立てる。	学習内容のバランス・担当人数のバランス・担当時間などに配慮して年間計画が立てられれば「3」とする。また、生徒の状況を見て教員間で運営について話し合いながら円滑に実施できれば「4」とする。 活動内容を見直したことを反映させた本校の「総合的な探究の時間活動計画」を作成し、成果と課題を明らかにできれば「3」とする。また、反省をもとに3年間の実施計画を再考し、次年度の計画を年度末の職員会議に提案できれば「4」とする。	4	4		B
	相談/特別支	生徒の実態把握と支援や配慮等の確立	アンケート調査や面談を実施し、生徒の実態を把握する。また、支援や配慮の必	生徒の実態把握。	生徒への悩み調査を実施し、生徒の困り感を把握するとともに関係職員と情報共有し、対応を行う。生徒の実態把握ができたなら「3」 悩みのある生徒の対応ができたなら「4」	3	3	①前期に引き続いて、情報交換会やアンケートの実施・報告を行った。気になる生徒に対しては保健室で面談を実施した。	

	援	要な生徒が、充実した学校生活を送れる環境の確立とスキルアップに努め、教職員の特別支援教育に対する理解と意識の向上を図る。	支援や配慮を必要とする生徒の面談と対応策の検討。 特別支援を必要とする生徒の個別の教育支援計画作成。	生徒との面談を実施し、困り感の把握と対応策を関係職員と検討する。面談が実施できたら「3」対応策の実践ができたなら「4」 該当生徒と保護者の面談を実施し、支援が必要な項目を担当とともに検討し、個別の支援計画を作成するための面談ができたなら「3」支援計画を作成できたら「4」	3	3	B	②家庭との連携を密に行い、他の先生方の協力を得ることができた。 ③今年度は1学年で1名、支援計画を作成した。今年度の方策や取組を検証して、来年度以降の対応に生かしたい。
第3学年	学年の協力体制を確立して指導し、教師・生徒間の信頼関係を築きあげる。	学年全体による指導体制を構築し、一人ひとりを大切にする生徒指導と教育指導を推進する。	情報共有を密に行って、共通認識を持ち、一貫性のある指導を行う。 進路や学校活動に対する意識啓発・家庭との情報共有を行う。	・学年会を月に2回以上実施し、生徒や学年運営に関する情報を共有できれば「3」 ・これに加えて、朝会や空き時間等においても生徒の情報共有を適宜行うことができれば「4」 学級（学年）通信を毎学期発行し、そこに進路に向けてのメッセージ、情報を載せる。 ・予定通り発行できたら「3」 ・さらに各家庭の意見や状況把握ができたなら「4」	4	4	A	①定期的に学年会を実施し、学年としての今後の動きの共有を行い、円滑な運営を行うことができています。また、朝会や休み時間等でも生徒の状況を共有できています。 ②2学期は1回発行し、学年PTAを1回実施することができた。学年PTAでは8割以上の保護者の参加があり、各家庭の生徒の状況を聞くことができた。
②多様な教育活動に対応した学校	事務室 学校の窓口としての適切な対応	外部との接点、情報の出入口としての窓口業務の重要性を認識し、職員室との情報の共有と連携の強化を図りつつ、より適切で迅速な対応に努める	適切な来客・電話対応 職員室との連携と適切な対応 適切な情報の管理	挨拶、用件を聞く、担当者への引き継ぎや案内の行うなど標準的な対応ができれば「3」、より迅速かつ正確な対応ができれば「4」 内部の接点として職員室との連携を意識した対応ができれば「3」、関係する業務等について、より共通理解を深められれば「4」 外部・内部の接点として事務室の除法管理が、適切に行われていれば「4」	3	3	B	概ね標準的な窓口対応をしている。

事務の推進		適正で迅速な会計処理と予算の効果的執行	法令等を遵守し、適正で迅速な会計処理に努めるとともに、教育活動の理解に基づいた予算の効果的執行に努める	適正な会計処理	規則等を遵守し適正で迅速な会計処理ができれば「4」	4	4	B	規則等を遵守し適正で迅速な会計処理は達成しているが、教職員・生徒の要望に応える余地がまだあるのではないかと分析し評価をBとした。
				予算の効果的執行	教職員、生徒の要望等にきちんと対応しながら、予算の効果的・効率的執行を達成できれば「4」	3	3		
	施設・設備の安全管理及び整備・充実	学校生活における生徒の活動・行動についての状況把握と理解に基づき、実態に即した、より効果的な施設・設備の安全管理及び適正な整備に努めるとともに、将来を展望した長期計画の策定により、よりよい教育環境の整備・充実を目指す。	校内巡視による実態把握	校内巡視による安全確認ができていれば「3」、不良箇所等について高額な箇所については県に予算要求を行う等、早急に対応できれば「4」	3	3	B	高額となる箇所について県への予算要求できたが、依然として時間がかかることが課題である。	
			突発的な破損・故障への迅速な対応	直ちに現場を確認し、迅速に対応すれば「4」	4	4			
			整備計画の策定	長・短期的視点からの効果的な校舎等整備計画を策定できれば「4」	3	3			
③	教務部	基礎学力の定着と徹底	3年間を見通した教育活動と学力の充実を図る。	公開授業や研究授業を通して授業研究を深め、教師相互の研鑽を行う。	計画通りに研究授業や授業研究会を実施することができれば「3」、各研修への参加率が8割以上であれば「4」	—	4	A	①研究授業を計画通りに実施し、先生方も積極的に参加していただくことができた。授業研究会の内容について、授業者へのフィードバックが行えるような工夫ができないか、検討を行っていく。 ②令和6年度入学生用の教育課程表のたたき台を作成することができた。来年度はこれをもとにさらに検討していく。
学力の充実と向上		進路目標や個の適性に応じた教育課程の研究と検証を行う。	年間計画通り教育課程委員会を開催し、期限内に新学習指導要領に沿った教育課程を作成できれば「3」、さらに、次年度の教育課程作成の着手できれば「4」	3	4				

第1学年	学力の向上と進路指導の充実	基礎学力を身につけるとともに、面談・進路学習を充実させ、各個人が自分の進路目標を定め、主体的に動けるようになる。	家庭学習を習慣化させる。	平日120分以上、休日330分以上の家庭学習時間を確保する。生活手帳の調査・点検を毎日行い、週平均学習時間合計が1260分以上の生徒が60%いれば「3」とする。80%いれば「4」とする。	2	2	C	①年度当初に比して学習に向かう意識・態度は育成されつつあるが、個人差が大きい。達成できている生徒に対しては学習内容の助言をしていく。 ②については回数を確保したが、今後は面談の内容をさらに充実させた い。 ③は学年団の先生方の協力もあり、掲示物や進路雑誌の紹介なども含めて継続した情報の提供ができていた。
			面談を充実させる。	個人面談を学期毎に1回、家庭訪問または三者面談を年間で2回実施する。予定通り実施すれば「3」とする。個人面談を学期毎に2回実施すれば「4」とする。	4	4		
			進路選択に向けての意識啓発を行う。	SHRやLHR、学級通信などで、進路に関する情報を発信する。学期毎に3回実施できたら「3」とする。4回実施できたら「4」とする。	3	3		
第2学年	主体的に学ぶ姿勢を育み、個に応じた基礎学力を充実させる。	主体的に学ぶ姿勢を確立させる学習指導を通して、各人の進路実現につなげる。	家庭学習の習慣化	1日180分以上の家庭学習時間を確保する。生活手帳の調査・点検を行い、適宜声かけを行う。週学習時間合計が1260分以上の者が70%以上であれば「3」、80%以上であれば「4」とする。	4	4	B	①12月末現在においては、年間の学習時間平均が1260分以上の生徒は5名であった。 ②2学期以降の自己評価の平均は3.0であり、向上している。 ③今年度貸し出し冊数は12月末現在において64冊であり、平均10冊を超えている。今後も利用を促進し、小説以外の学習関係の本についても読書啓発活動を継続していきたい。
			自主学習の充実	毎月、自主学習の振り返りを行い、適宜声かけを行う。毎月の自主学習の自己評価平均が3以上であれば「3」、平均4以上であれば「4」	2	3		
			読書活動の推進	図書館の利用を促すとともに、学級文庫の充実を図る。年間の図書館貸出冊数が平均6冊以上であれば「3」、平均8冊以上であれば「4」	4	4		

第3学年	進路目標を明確にさせ、学力向上と学校生活の充実を図る。	個人面談を十分行い、生徒と対話しながら進路への認識を深めさせ、学校全体で生徒の進路実現を達成できるような指導体制を構築する。	個人面談を充実させ、適切な指導・助言を行う。	個人面談を各学期に1回実施。予定通り実施できれば「3」、自主的に進路情報を収集する態度を深める面談ができれば「4」	4	4	A	①個人面談は一人ひとりの進路に合わせて適宜実施できた。進学先の決定だけに限らず、受験方法や受験時期についても生徒自身にしっかり理解させ、生徒の意見を聞きながら一緒に考えることができた。 ②学年会や検討会において情報共有や議論を行うことができた。面接練習は役割分担を行い、指導内容や練習の進み具合を報告し合いながら、学年全体で指導にあたることができた。 ③全員目標達成。特に放課後自学では、全員が集中して時間を活用した。
			面談で得た情報を学年や各教科で適宜共有し、個に応じた指導を行う。	面談の情報共有を学年会や志望校検討会で実施。予定通り実施できれば「3」、面接、添削指導担当者を担任中心に割り振り、個々の生徒に十分な指導ができたと判断できれば「4」	3	4		
			家庭学習の習慣化	1日180分以上の家庭学習時間を確保する。生活手帳の点検を定期的に行い、適宜声かけを行う。週平均学習時間合計が1260分以上の者が80%以上いれば「3」、90%以上いれば「4」	4	4		
国語科	学力向上の為に学習指導法の研究	進路実現の為に必要な学力向上の為に、効果的な学習指導法の研究を行い、実践する。	授業計画について検討し、情報交換をする。	教科担当者間で情報交換を行い、学力面での課題を確認し、効果的な指導につなげる。月に2回以上実施できれば「3」、月に4回以上実施できれば「4」	3	3	B	①は、職員室内の会話内で授業内容や進度の確認、模試の内容について意見を共有していた。 ②は公開授業・研究授業ウィークスで授業見学を行った。 ③は授業の中で行う個別指導、放課後の質問対応、テスト返却時の学習アドバイスを行い、また3年生には志望校や学部学科を踏まえた指導を行った。
			授業参観をして意見交換を行うことで、指導力を向上させる。	授業参観を通して自身の授業実践に活かす。年に2回以上実施できれば「3」、年に3回以上実施できれば「4」	—	3		
			個に応じた指導を実践する。	生徒の志望・学力に応じた指導を行う。具体的な方策を2つ以上実施できれば「3」、具体的な方策を3つ以上実施できれば「4」	—	4		

	生徒の読書習慣の向上への取り組みの実施	読書推進活動の実施等を通して、生徒が自身の世界観を広げ、社会全般に関する教養を得るために必要な読書習慣を身に着けさせることを目指す。	授業でブックトーク等を実施する。	各学年の授業においてブックトークやビブリオバトルといった読書への意欲向上、読書習慣の定着につながる実践を行う。年間に1回以上実施できれば「3」、年間に3回以上実施できれば「4」	—	3	B	①②に関しては、授業の中で教材に関連する書籍の紹介を行なったほか、図書館で授業（読書指導）を実施した。 ③は授業の開始時に行っており、週2回以上の頻度で現代文／古文の語彙力向上の機会を作ることができた。
			朝読を活用した読書推進活動を実施する。	朝読で読む本のジャンルを指定する等、読書に対する視野を広げる活動を、朝読を活用して行う。年に2回以上実施できれば「3」、生徒へのアンケートで生徒の読書習慣が半分以上の生徒に見られれば「4」	—	3		
			語彙力を養成する。	小テストを通して、読書をする上で必要な生徒の語彙力を向上させる。小テストを週1回以上実施できれば「3」、小テストを週2回以上実施できれば「4」	4	4		
地歴科	基礎知識の定着と思考力の育成	定着させた基礎知識を活用し、多面的・多角的視点から考察する能力を養う	授業と課題による知識の定着への取り組み	定期考査の訂正、長期休業等における課題の取組みにおいて課題の提出・合格90%以上で「3」95%以上で「4」とする。	4	4	B	①課題の提出方法や量の改善を行い、生徒の取り組みやすさと課題による目的の達成を重視して実施した。ほとんどの生徒が期限内に提出できた。 ②評価シートを作成、また授業中の思考・表現活動の時間を増加させた。 ③授業の導入やまとめのタイミングで小値賀に題材としたテーマ設定を行うことで、授業の内容と知識の活用を促すことができた。県埋蔵文化財センターより講師を招き、地元の歴史についてもレクチャーしていただいた。
			知識活用場の設置	各単元のまとめにおいて生徒によるアウトプットの設定を設けることができれば「3」、授業中にも実施できれば「4」	3	4		
			身近な学問として意欲を喚起する	授業での学習を長崎県・小値賀町に関連させ、取り上げる。授業において3回以上取りあげることができたら「3」、5回以上取りあげることができたら「4」	4	4		

	教員の教科指導力向上による生徒の理解力向上	教材研究・指導法改善による生徒の学力向上	他校種・他校間の教員との情報交換	小中学校や他の高校との情報交換と連携を通して、指導法の改善を行う。連携をとることができたら「3」、常時連携をとることのできるシステムの確立ができたら「4」とする。	3	3	B	<p>①中学校の社会科教員と連携を取り、授業計画や指導法の改善について話し合いを行った。</p> <p>②研究授業を実施し、中学校社会科教員にも参加を依頼した。参観や事後の協議を実施し、生徒の習熟度を踏まえた具体的な議論ができた。</p> <p>③進路志望に応じた新聞記事の紹介や個別指導などを実施できた。</p>
			公開授業・研究授業を実施し、課題の発見と改善を行う。	研究授業と授業研究を実施。予定通り実施できれば「3」とする。準備での連携、授業研究での意見交換が十分にできれば「4」とする。	—	3		
			個別指導の充実	将来の志望や興味関心に応じて指導法を柔軟に工夫する。放課後やイベントなど、個人への指導時に実施することができたら「3」、授業で実施することができたら「4」とする。	3	4		
公民科	知識の定着と公民的資質の育成	現代社会を生きる上で必要な知識を身につけ、良識ある公民としての姿を自ら模索する態度を育てる。	現代社会の問題に関するレポート・作文の作成。	レポート・作文の課題を1回実施することができれば「3」とする。2回実施することができれば「4」とする。	4	4	A	<p>①授業の内容を活用しつつ、芸術の鑑賞や現代の諸問題に関するレポート作成に取り組みさせることができた。</p> <p>②時事や小説で描かれる社会問題を題材に、授業を構成することができた。</p> <p>③主権者教育・平和教育を実施し、3年βでは金融に関する基礎知識の授業も行うことができた。</p>
			時事ニュースを主題にした授業を実施する。	各学期1回以上実施することができれば「3」とする。3回以上実施することができれば「4」とする。	3	4		
			学校行事の活用	主権者、平和教育、租税教室を実施できれば「3」とする。その他の行事、あるいはその行事と関連付けた取り組みで公民分野を活用できれば「4」とする。	3	4		

	現代の諸課題への対応力育成	現代社会の諸課題について知るとともに、自ら思考したり、表現したりする力の育成を図る。	新聞記事を読む解る機会の確保	授業や課題で新聞記事に触れ、現代の社会を知る機会を設ける。授業で各学期3回以上実施できれば「3」、5回以上実施できれば「4」とする。	4	4	B	①新聞記事を思考・表現活動のきっかけに使用するなど、授業展開に生かすことができた。 ②ICT機器を用いて、統計データや政策比較を行うことができた。また、それをレポートにまとめる活動を実施することができた。 ③家庭でのインタビューを通して、
			課題解決能力の育成	様々なツールを活用し、課題解決に向けた取り組みを促す。2つ以上のツールを活用出来たら「3」、それを用いて発表やレポート作成に取り組めたら「4」	3	4		小値賀の現状や過去との比較を行う活動に取り組めた。また、校内の身近な行動にも目を向け、生徒自ら他者に活動を促すポスターを作成した。
			地域課題への関心と実行	小値賀町や長崎県で実際に起きている問題を通して、公民としてできることを考察する。2単元以上で取り組めたら「3」、4単元以上で取り組めたら「4」	3	3		
数学科	基礎基本の徹底および応用力の育成	進路実現のために必要な学力を身につける。	模試の有効利用	・1年対外模試において、全国偏差値平均47以上、2,3年対外模試において、全国偏差値平均50以上が達成できれば「3」 ・さらに60以上の育成ができれば「4」	3	4	A	①7月10月進研記述で1年生は平均全国偏差値44.2と48.1、2年生は49.4と51.8、3年生は51.2と58.0。各学年とも偏差値60以上は1名ずつ。上位者はいるが、全体的な底上げが必要である。今後も粘り強く指導をしていきたい。 ②指導計画を立て、順調に進度を確保できている。1年生は学力差があるため、10月から習熟度別に授業を行った。
			長期的な視野のもと年間計画を立て、実行する。	学力向上のための年間計画をたて、 ・実行できれば「3」 ・発展できれば「4」	4	4		

	自主学習力を育てる。	家庭学習の充実を通して自主学習力を育てる。	就職試験や入試問題を家庭学習課題にして、学習の動機付けにする。	・8割の生徒が取り組んだら「3」 ・全員取り組んだら「4」	3	3	B	①1年生ではα志望の生徒に対して、共通テストを意識した思考力問題を冬課題として与えた。2年生では、αに対して思考力問題、βに対して就職試験レベルの問題を与えた。
			生徒の実情に合った課題を配布し、家庭学習の習慣をつける。	・8割の生徒が取り組んだら「3」 ・全員取り組んだら「4」	3	3		②大半の生徒は日々の課題を確実に取り組んでおり、家庭学習の習慣はついている。3年生では進路に応じて必要な課題を与えた。今後さらに質の向上を目指したい。
理科	授業の充実と学習指導法の工夫・改善により、生徒の創造的な思考力を育成する。	個に応じた指導によって基礎学力の定着を図る。また、授業を充実させることで、生徒の思考力を育成する。	生徒の実情に合わせた適切な課題を与え、基礎学力の定着を図る。	生徒の実情に合わせた課題を出し、その理解度が7割以上であれば「3」、理解度が8割以上であれば「4」。	3	3	B	①生徒の実情に応じた課題については、日々の授業や課題の取組状況等を踏まえて生徒の個々の状況を把握し、設定できている。来年度以降も理解度向上に向けて継続していく。
			実験観察を積極的に行い、生徒の科学的思考力を育成する。	生徒実験を年2回行うことができたなら「3」、3回以上行うことができたなら「4」。	—	3		②生徒実験については、ICT機器等も活用しながら計画的に行うことができた。物理室のガス機器の整備もしていただいたので、来年度以降は行う実験の種類を増やせるよう、計画する。

保健体育科	授業や体育的行事において、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高める。	集団行動を定着させ、各領域で意欲的な活動を行う。	生徒が積極的に集団行動に取り組む。	体育委員を中心に生徒が主体的に活動し、集団行動の基本が定着しているか。学校生活で実践できれば「3」、学校外でも実践できれば「4」	3	3	B	<p>①集団行動については、体育授業時だけでなく、日常生活（校外含む）においても周囲に気を配りながら、キビキビと行動できている。</p> <p>②体育授業においては、生徒は主体的かつ協力して活動している。また、互いに教え合いながら活動するので雰囲気も良く、技能向上も見られる。満足感が高いと感じる。</p> <p>③小中高一貫教育のリーダーとして下級生を引っ張っていかうとする姿勢が見られ、合同体育祭や持久走大会など意義あるものになっていると感じる。</p>
			生涯スポーツを見通した授業づくり。	各領域において基礎基本を身につけ、互いに教え合いながら協力し、楽しく安全に活動できているか。体育授業時に大きなけががなく活発に活動できれば「3」、体力や技能の向上を90%以上の生徒が実感できれば「4」	4	4		
			中高合同体育祭においてリーダーとしての態度を育む。	中学生のよきリーダーとして、合同練習へ積極的に参加しているか。町へのアピールはどうか。成功へ導くことができれば「3」、達成感を80%以上の生徒が実感できれば「4」	4	4		
新体力テスト等を活用し、基礎体力の向上を目指す。	新体力テストを活用し自己の体力を把握し、日々の授業において基礎運動能力を高める。	新体力テストの実施と結果の活用。	新体力テストを5月までに実施し、結果の分析をさせる。計画どおり実施したら「3」、問題点に対して速やかな対応策を講じた場合「4」	3	3	B	<p>①新体力テストの結果を十分に活用できなかった。次年度は1学期実施の体力テスト結果をうけ、2学期から各自の強化ポイントを意識したサーキットメニューを作成したい。それにより、毎時間実施しているサーキットトレーニングへのモチベーションも向上すると思う。</p>	
		柔軟性の定期測定	長座体前屈測定又はストレッチテストを2ヶ月に一回実施する。計画どおり実施したら「3」、問題点に対して速やかな対応策を講じた場合「4」	3	3			
		個々の状況に応じた体力の向上。	体育授業時には、サーキット運動を継続して実施する。計画どおり実施したら「3」、達成感を80%以上の生徒が実感できれば「4」	3	3			

芸術科	基礎学力の定着	音楽の基礎的な力をつけ表現力の向上を目指す。	表現力を高めるために個別指導を行う。	個別の実技指導を（1曲につき）1回以上実施できれば「3」それ以上なら「4」	3	3	B	①各授業で個別指導に力を入れることで、自分の表現を工夫したり、全体の表現力の底上げに大きくつながった。 ②後期も読譜力を高める活動を継続した。実技試験や授業の振り返りの感想でも「読譜速度が上がった手応えがある」という意見が見られたので、次年度も継続して取り組む。
			表現力を高めるために基礎的な音感や読譜力を高める指導を行う。	1ヶ月に3回指導ができれば「3」それ以上なら「4」	3	3		
共同的な学びの実現	学びの場として、お互いに教えあったり批評することができる雰囲気・関係性を築く。	少人数・小集団での活動の実践。		グループによる活動を取り入れ、生徒同士の学びあう時間を（1曲につき）1回計画・実施できれば「3」それ以上なら「4」	4	3	B	①生徒の表現を深めさせるために、具体例を挙げながら声かけすることで、その後の練習の雰囲気が大きく変わる場面があった。今後、声かけの仕方を工夫していきたい。 ②様々な発表の場を設けることで、生徒の練習の集中力や意欲の向上につながられた。自分や生徒の負担も考慮し、次年度の西高祭やクリスマス会などは内容を検討する必要がある。
		「聴き合う」場の設定。		演奏発表の機会を設定し、それぞれが表現について考え・発表し合い、相互評価を学期に1度以上実施できれば「3」それ以上なら「4」	3	3		
生徒の主体的な音楽表現力の育成	生徒に芸術を身近に感じさせ、主体的・創造的な表現能力の育成を目指す。	様々な種類の音楽に触れる機会を設ける。		学期中に1回以上鑑賞の時間を設けられたら「3」、鑑賞の内容と表現活動と関連付けることができれば「4」	3	3	B	①鑑賞の授業を実施することで、他の分野において積極的な姿勢で取り組む姿が見られた。今後も表現分野との関連を持たせながら、多様な音楽について触れる機会を設定していく。 ②後期はICT機器を積極的に活用することでイメージの伸長に繋がられた。
		表現力を支える想像力を育てるためにICT機器を活用する。		表現を深めさせる場面において（1曲につき）1回以上活用できれば「3」、それ以上実施できれば「4」	2	3		

英語科	基礎学力の定着	英語に関する基本的な知識の習得	予習・復習の徹底	授業時に予習や復習の確認を行う。7割の生徒が予習や復習を行ってれば「3」、9割の生徒が予習や復習を行ってれば「4」	4	4	B	<p>①ほとんどすべての生徒が予習を行い、授業に臨むことができた。</p> <p>②定期・実力考査や各種模試後の訂正にしっかりと取り組ませることができた。考査や模試等がない期間でも授業の復習に積極的に取り組ませ、自身の学力向上に努める姿勢を育成していくことが今後の課題である。</p> <p>③基礎学力の向上に向けて、小テスト等に熱心に取り組むことができていた。</p>
			各種テストのやり直しノートの提出	確実に提出させる。9割以上の生徒が毎回確実に提出したら「3」、全員毎回確実に提出したら「4」	4	3		
			小テストへの取組	毎時間合格に向けて努力することで、基礎学力をつける。合格する、または不合格でもやり直しを提出する生徒が9割を超えれば「3」、全員合格したら「4」	3	3		
学習のつまずきを究明し、その対策を講じるとともに、学習指導方法の工夫と改善に努める	授業力向上と教科指導の充実。生徒一人ひとりが英語を使う場面を増やす	生徒が英語を使って話す機会の増加	CAN-DOリストにある学年ごとの目標に照らし合わせて、全てのクラスで定期的にスピーキング活動(スピーチ、インタビュー、リテリングなど)を取り入れる。年間1回パフォーマンステストを実施できたら「3」、年間2回以上実施できたら「4」	—	3	B	<p>①12月中に全学年対象にインタビューテストを実施することができた。</p> <p>②3学期に新しいALTを迎え、その後は授業中に積極的に英語で発言できる雰囲気を作り出すことができた。</p> <p>③7・10月実施分の合格者は、3級2名、準2級1名、2級1名であった。英語検定合格を目標の1つとし、英語の学習に主体的に取り組む態度を育てていきたい。</p>	
		ALTとのTTにより英語に触れあう機会を増やす	TT授業を週に1回以上実施し、かつ生徒の授業中の発言が授業の3分の1以上あれば「3」、2分の1以上あれば「4」	—	3			
		英語検定合格を目指す	週課題や夏季補習などを利用して、英語検定1次試験対策を十分に行う。また、1次試験合格者に対して、昼休み等を利用して、個別に面接試験対策を行う。1人あたり2回以上練習を行うことができたなら「3」、全員合格すれば「4」	—	3			

家庭科	家庭生活を営むために必要な能力を身につける	生活を主体的に営むために必要な理解と技能を身に付け、課題を解決する力を養い、生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。	実践的・体験的な学習活動を充実させる。	調理実習、被服製作において、生徒自らが考案・計画した作品を、全員が最後まで完成できれば「3」とする。さらにその作品に創意工夫があり、全員の評価がAであれば「4」とする。	3	3	B	①フードデザインの調理実習は12回のうち10回は生徒自らが考案した献立で実施した。被服実習では全員が作品を完成させたが、デザインの考案は製作時間を確保するため実施しなかった。 ②乳幼児ふれあい活動では、こども園と連携を図り、成果を上げることができた。 ③食生活の改善については、自己の食生活の分析を基に家庭での実践ができた。PDCAサイクルを意識した改善策とまではいかず、創意工夫がやや不足した。
			保育実習の充実を図る。	こども園における乳幼児ふれあい活動を通して、活動前後で保育への関心が、生徒の3分の2が高まれば「3」とする。さらに全員が高めることができれば「4」とする。	3	3		
			食生活の課題解決につながるアイデア料理を考案させる。	自己の食生活の課題を見だし、その解決を図るためのアイデア料理を全員が考え、実践することができれば「3」とする。その実践に創意工夫があり、全員の評価がAであれば「4」とする。	—	3		
④ 基本的な生活習慣の確立と規範意識の高揚	生徒指導部	集団の秩序を守り、高校生として責任と規律ある生活態度の確立を目指す。	高校生さわやか運動（服装）を推進する。	指導されなくても自ら整える雰囲気や姿勢を養う。毎回の服装頭髪検査で90%以上が合格なら「3」95%以上が合格ならば「4」	4	4	A	①服装・頭髪については、1年生で不合格者がいるが、全体的にはきちんとした身なりができています。 ②挨拶運動については、生徒会役員が毎週火・木に実施し、月初めの風紀委員と合同で実施できていた。次年度は、ただやるだけではなく、掃除をしながら実施したり、より大きな声で挨拶ができるよう働きかけたい。
			高校生さわやか運動（挨拶）を推進する。	風紀委員会を中心に挨拶運動を実施。月に1回実施すれば「3」生徒会役員も合同で実施できれば「4」	4	4		
			時間の厳守。	指導されなくても規律ある行動ができるよう育てる。各授業・行事、5分前行動ができれば「3」毎月の遅刻者数が全体の10%以下であれば「4」	4	4		
	交通マナーの遵守を徹底させる	自転車乗車マナーの向上。	自転車整備の徹底。	整備不良については早急に改善させる。年3回の自転車点検で合格が80%以上で「3」95%以上が合格ならば「4」	3	3	C	①自転車点検は、学期に1回実施し、整備不良については改善するところまで確認できた。 ②自転車乗車マナーについては、長期休業前に全校生徒に対して実施（長期休業中の心得で担任指導）した。
			自転車乗車マナーを指導する。	夜間無灯火・並走・傘差し運転の禁止。マナー指導が各学期に1回実施できれば「3」定期的に下校時の確認ができれば「4」	3	2		

			駐輪場の整理整頓。	全車、駐輪場の車止めに停車させる。毎月の駐輪場点検・清掃が実施できれば「3」定期的に保健美化委員が各クラスでの実施状況説明ができれば「4」	3	2	③駐輪場の使用は正しく行われている。駐輪場点検・整備は、次年度から各学期に1回（自転車点検時）で構わないと思う。
保健部	生徒及び教職員の健康の保持増進	生徒及び教職員の健康の保持増進を図り、自分の健康に関心を持たせる。	健康診断・保健指導を実施し、適切な指導・援助を行なう。	計画どおり実施できれば「3」、受診後、指導・支援ができれば「4」	3	4	B ①健康診断についてはすべて関係機関との連携によってすべて実施することができた。検診の結果をもとに歯科指導を含め、生活習慣の指導も実施できた。 ②保健日より作成も生徒保健美化委員の役割とし定着してしてきた。これからは健康情報を適切なタイミングで提供していきたい。
			健康の保持増進を図るため、出来るだけ多くの情報提供を行う。	毎月計画通りの情報提供を行なったら「3」、リアルタイムに必要な情報提供も出来れば「4」	3	3	
第1学年	基本的生活習慣を身につける	基本的生活習慣を定着させ、学校生活の諸活動に積極的に参加させ、協調性・自主自立の精神を養う。	学校活動に積極的に関わる。	全員が専門委員や教科連絡係を担当し、日常生活の係運営が滞りなく行われていれば「3」とする。専門委員会において、50%の生徒が副委員長か書記を経験すれば「4」とする。	3	3	B ①に関しては、前期に引き続いて全員で助け合いながら、専門委員や係の仕事を行遂行することができた。 ②は1月までの段階で89%である。ほとんどの生徒が欠席をせず登校していた。
			毎日登校する。	年間出席率が80%以上であれば「3」とする。90%であれば「4」とする。	—	3	
学ぶ楽しさを経験し、教師・生徒間の信頼関係を築き上げる	生徒自ら学ぶ姿勢を身につける環境を教師・生徒が作り、落ち着きのある誠実な学習・生活態度を確立させる。	教室の保全・環境美化を行う。	生徒が率先して清掃活動に参加すれば「3」とする。教員も生徒と共に清掃に参加し、学校環境の美化につとめれば「4」とする。	4	4	B ①学校評価アンケート（生徒）でも高評価だった。 ②については学習法や学習内容の質問に行く生徒が見受けられた。2年次に向けても継続させたい。 ③も前期に引き続きNIE、学級文庫や図書室の利用を勧めている。	
		生徒の向学心に応える教員の姿勢を徹底する。	生徒の質問に丁寧に対応し、問題の解決につなげることができれば「3」とする。生徒一人一人に応じた学習方法の助言や課題の設定等ができれば「4」とする。	3	3		

			NIE・朝読の実施を徹底する。	NIE活動を予定通り実施し、ブックトーク等の読書推進活動が学期毎に1回できれば「3」とする。読書推進活動が学期毎に2回できれば「4」とする。	3	3	
第2学年	中堅学年としての自覚を持たせ、学校生活を再構築させる。	基本的生活習慣を見直し、生活の質を高める。また、学校生活の諸活動に積極的に参加させ、協調性・自主自立の精神を養う。	挨拶の励行と高校生らしい容儀の指導	・80%以上の生徒が自ら挨拶をし、かつ、日頃から爽やかな身だしなみを維持することができれば「3」 ・90%以上の生徒が挨拶・爽やかな身だしなみともに維持できていれば「4」	4	4	B ①今年度行われた服装頭髪検査において、全員がしっかりクリアをしており、あいさつも爽やかである。 ②全員が専門委員を担い、各委員で積極的な活動を行っている。 ③12月末現在において、99.8%である。毎日充実した日々を過ごしている様子である。
			学校活動・行事への積極的な参加	・全員が専門委員となり、かつ日常生活の係運営が滞りなく行われていれば「3」 ・専門委員会において、生徒自ら主体的に活動をしていれば「4」。	3	3	
			自己管理能力の育成	・年間出席率が90%以上であれば「3」 ・95%であれば「4」	4	4	
第3学年	基本的生活習慣を確立させ、社会に適應できる人間を育成する。	基本的生活習慣を見直し、生活の質を高め、学校生活の諸活動に積極的に参加させ、協調性・自主自律の精神を養う。	自己管理能力の育成	生活手帳や長期休業、考査前の目標設定、学習時間管理について記録を徹底させる。 ・この活動を行い、かつ出席率が90%以上あれば「3」 ・出席率が95%以上あれば「4」	4	4	B ①生活手帳は全員が毎週提出をし、学習時間の管理を行った。また、長期休暇前には課題の計画を立てさせた。出席率は毎月100%であった。 ②学習環境の整備は自主的にできていた。情報冊子を活用させるために棚などの整理ができればよかった。 ③体育祭や文化祭では、自分たちにできることを全員で協力して考え、役割を分担しながら計画的に実施できた。また、後輩への指導を行うことができた。
			落ち着いた学習環境の整備	ロッカー、学習机周辺の整理整頓について ・日常的に整理できていると判断できれば「3」 ・これに加えて掲示物や情報冊子の整理ができていれば「4」	4	3	
			リーダーシップの促進	学校行事や委員会活動へ積極的に参加し、下級生に対してリーダーシップを発揮できたと ・教員の8割以上が判断すれば「3」 ・9割以上が判断すれば「4」	4	4	

⑤ 進路指導の充実	進路意識の向上・進路実現	将来の職業意識を持たせ、生徒の能力や適正に応じた進路意識の向上を目指す。	進路講演会の実施	専門知識に長けた外部講師を招き進路希望に合わせた講演会を実施できれば「3」とする。さらに生徒の満足度が高ければ「4」とする。	4	4	①進路講演会については、どの学年についても生徒の多く満足度が高かった。 ②進路検討会については、一人ひとりの生徒に対してきめ細やかな検討ができ、進路指導や受験指導に活用することができた。 ③今年度は6名の生徒がインターンシップに参加したが、生徒のキャリア意識を向上させる有意義な活動となった。	
			進路検討会の実施	学年と協議して進路検討会・学力検討会を円滑に実施できれば「3」とする。また検討会の結果をもとに一人ひとりに適切な進路指導ができれば「4」とする。	—	4		A
			インターンシップの実施	インターンシップに参加させることで社会性や職業観を養うことができれば「3」とする。さらに生徒の満足度が高ければ「4」とする。	—	4		
	学力の向上	計画的・継続的な学習指導を確立し、学力の向上を図る。	自主学習力を育てる。	家庭学習や学習会等を通して自主学習力を育てる。学習時間の記録において、1,2年平均180分、3年平均240分を50%の生徒が達成できれば「3」とする。また、70%の生徒が達成できれば「4」とする。	2	4		①9～12月平均の学習時間目標達成人数は1年5名、2年5名、3年8名で全体で78%であった。今後は「学習の質の向上」や「重点科目」を意識した指導を行う必要がある。 ②11月の対外試験では1年α希望者偏差値平均50.3、58以上0名。2年αは偏差値平均46.5、58以上が0名。3年α偏差値平均48.7、56以上が0名であった。授業や課題内容を見直し、学力向上のために工夫が必要である。
			模擬試験・実力テストを有効に利用する。	模擬試験・実力テストを計画通りに実施し、事前事後の指導を徹底する。1,2年1月対外模試において、偏差値平均50以上、58以上1名、3年2学期対外模試において偏差値平均46以上、56以上1名が達成できれば「3」とする。また、1,2年1月対外模試において、偏差値平均54以上、60以上1名、3年2学期対外模試において、偏差値平均48以上、58以上1名が達成できれば「4」とする。	3	2		

	第2学年	自己認識を深めさせ、各人のキャリア観を確立させる。	進路指導や個別面談を充実させ、生徒個人の進路意識を高める。	個人面談の充実	個人面談を学期毎に1回、三者面談を年間で2回実施する。予定通り実施すれば「3」、個人面談を学期毎に2回実施すれば「4」	3	3	B	①2学期には、全員1回以上の面談を行っており、三者面談についても12月に全員実施することができた。 ②小値賀に貢献するための活動を行うことができています。また、2つのコンクールに応募し、受賞することができた。 ③2学期は、学級通信を計画的に発行し、進路に関する情報提供を行うことができた。
				総合的な探究の時間の充実	総合的な探究の時間を通して進路意識を高め、将来小値賀にどのような形で貢献できるか考える。小値賀に貢献するための探究活動の成果が得られれば「3」、コンクール等に応募できれば「4」	—	4		
				キャリア観の確立に向けての意識啓発および家庭との情報共有	SHRやLHR、学級通信などで、進路に関する情報を発信する。学期毎に2回実施できたら「3」、3回実施できたら「4」	3	3		
⑥	教務部	小中高一貫教育の内容の工夫を図り、その成果を検証し、改善に努める	小中高一貫教育を推進し、学校の魅力化を図る。	小中高一貫教育に関する会議日を設定し、校種間の調整を図る。	毎月1度「小中高教務部会」を実施できれば「3」、さらに、高校の行事予定を1ヶ月前までに提示できれば「4」	3	3	B	①教務主任会を毎月実施し、情報共有することができた。定例の会議だけでなく、普段から連絡を取り合うことができたので、今後も継続していく。 ②オープンスクールでは、生徒の頑張りのおかげで本校の魅力を伝えることができたが、内容に重複があったりしたので、来年度に向けて改善を行う。また、卒業生にも協力をしてもらった。いろいろな立場からの話があると魅力も伝わりやすいと思うので、今後も継続していく。
				オープンスクールや入試説明会を実施する。	オープンスクールにおいて、中学生・教員・保護者に本校の教育方針等を伝えることができれば「3」、さらに実施後のアンケートにおいて参加者の満足度が80%以上であれば「4」	—	4		

理科	小中高一貫教育の内容の充実を図る	小中高一貫教育の内容の工夫を図り、その成果を検証し、改善に努める。	教科部会の充実に向けて、校種間で連携して授業計画を行う。	中高の教員で協議を1回実施できれば「3」、2回以上実施できれば「4」	—	4	B	①合同会議の教科部会において、研究テーマを設定し、協議を進めることができた。 ②研究を進めるにあたって、中学校の先生方にも意見をいただきながら授業を行うことができた。研究授業ウィークスの形態が変わったことによる、他校種との連携については、今後もその方法を模索していく。
			中高が連携した授業の実施	中高の教員が協力して授業を実施できれば「3」、授業後の研究協議も行うことができれば「4」	—	3		
⑦その他	教務部 「アイランド・チャレンジ事業」の取り組みを推進する	広報活動の充実	「北松西高だより」の発行。	年8回発行すれば「3」 毎月発行すれば「4」	4	4	A	①北松西高だよりは12月までで10回発行できている。内容においては、総探での活動を紹介するなど、普段の活動の様子を知ることができるようになっている。今後も毎月発行して、学校の様子を伝えていく。 ②ホームページは先生方のご協力により月平均10.8回更新できている。今後も継続していく。
			学校ホームページの定期的な更新。	月3回更新すれば「3」 月5回以上更新すれば「4」	4	4		
生徒指導部	学校、保護者、地域社会との連携	保護者、地域社会との連携により、学校と一体になって生徒の健全な育成を目指す。	保護者・地域との連携。	情報を共有し、生徒の健全育成に努める。生活補導会議を年に1回実施し、決定事項を確実に伝達できれば「3」 学校評価アンケートにおいて、No9【教師は、生徒をよく理解し適切に指導している】の項目評価が3.5以上であれば「4」	3	3	B	①学校評価アンケートにおいて、「学校は、生徒をよく理解し適切に指導している」の項目評価が平均3.2と低くなっている。可能であれば保護者の方々のご意見を伺い改善していきたい。 ②情報モラルについては、情報の授業ICT係との関連も考慮し、生徒指導からも指導する機会をもちたい。
			職員間の連携。	問題行動が起きた場合は素早く情報を共有する場を設定する。機に応じて情報交換ができれば「3」解決することができれば「4」	4	4		

			携帯電話・インターネット利用の危険性の啓発。	携帯電話やネットを正しく利用できるように保護者と協力体制を築く。保護者への説明を年に1回できれば「3」複数回実施できれば「4」	3	3	
生徒会指導部	生徒の自治的活動の活性化	活気ある学校づくりに、生徒一人ひとりが主体性を持って取り組む精神を養う。	学校行事への積極的参加。	各行事で生徒が主体的に企画・運営に関われるよう生徒会の活動を支援できれば「3」、学校評価アンケートで、「学校行事に積極的に取り組んでいる」と答えた全校生徒の評価平均点が3.6以上ならば「4」	3	4	B
			各専門委員会活動の活性化。	各委員会で努力目標を設定し、それを達成するため、各種専門委員会を予定どおり実施できれば「3」、問題点の把握とその改善に向けて努力する姿勢を養うことができれば「4」	3	3	
部活動の充実のための支援	体育部・文化部が充実した活動ができるよう、積極的に支援する。	部活動への全員加入。心身共に成長できるよう支援する。	全校生徒が部活動に所属すれば「3」、学校評価アンケートで、「部活動に意識を持って活発に取り組んでいる」と答えた全校生徒の評価平均点が3.8以上ならば「4」	3	3	B	
		部活動顧問会の開催。	部活動運営について部活動顧問会を年一回開催すれば「3」、各部の活発な活動支援などのために臨時で顧問会を開催し論議・共通理解の場を設定できれば「4」	3	3		

保健部	施設・設備の健康・安全対策	生活・学習環境の安全・衛生・美化活動に努める。	保健部・学校薬剤師による環境安全点検（校舎内外）、安全衛生点検〔年3回〕を実施	点検を計画どおり実施したら「3」、問題点に対して速やかな対応策を講じた場合「4」	3	3	B	①安全点検も学校薬剤師と実施する定期環境衛生検査も実施できた。校内の補修等についても事務室の努力で計画的に実施中。 ②清掃については、生徒職員ともに頑張ってもらっている。負担感が増さないよう道具等で対応していきたい。
			掃除の徹底。	清掃活動を計画どおり実施したら「3」、問題点に対して速やかな対応策を講じた場合「4」	3	3		
相談 / 特別支援	小値賀町特別支援教育連携協議会実務者会の充実	連携協議会実務者会において小中学校と連携を取り、生徒の実態把握と対応策を検討する。	地区の連携協議会実務者会での情報共有と連携の充実。	地区の連携協議会へ参加し、情報共有と特別支援教育に関する研修会の企画・運営に関わる。実務者会において情報共有ができれば「3」、研修会の運営に関われば「4」	3	4	A	①特支CO実務者会を2回計画通り開催できた。小値賀の子ども達に系統的な支援が行えるよう内容やあり方についても検討することができた。 ②特別支援についての情報提供をおたよりを通じて行えている。おちか新聞でも発達障害についてのコーナーもでき、子どもがいない世帯への認知を広げることの一助になっている。
			特別支援教育の保護者への周知と理解を深める。	地区の連携協議会発行の特別支援教育だよりやパンフレットを発行し、生徒・保護者へ周知を図る。特別支援教育だよりの発行に関われば「3」、特別支援教育だよりを2回発行できれば「4」	4	4		